

韓国大学入学者選抜の変容

——入学査定官制導入後の展開状況——

山本以和子（京都工芸繊維大学）

我が国のAO入試が本格的に導入されて10年余りが経つ。当初は、学力偏重入試を脱し、多面的評価による新しい大学入試の一つとして導入されたが、その役割や意義について、課題も生じている。一方、近年、この多面的評価を取り入れ入学査定官制を導入した韓国ではどのような状況となっているのであろうか。実施5年を経た現在の状況および成果を調査した結果、この制度の拡大、選考内容の進化、および制度の成果が高評価であるという状況がみられた。

1 はじめに

我が国のAO入試が本格的に導入されて10年余りが経過した。その間、AO入試の多様化・拡大化が進行してきた。中央教育審議会高大接続部会で使用された数値¹⁾によると、平成12年度には、4年制大学におけるAO入試の実施率が1.4%だったが、12年後の平成24年度には、8.5%にまで増加しており、実施大学数は、国公私立を合わせて530大学50626名の入学者数の規模となっている。しかし、AO入試の拡大状況の中には、工夫を凝らした選抜方法を構築して受験生を選抜するシステムを創生しても、大学経営面への配慮のため実質は学力不問となってしまう状況や、合格者の入学後の追跡調査によりAO入試を廃止するという動きも表出している。開設以来、増加を続けてきたAO入試であったが、その入学者の割合は、平成22年度の8.8%をピークに減少している。また、設置区分別AO入試入学者の割合は、平成24年度で、国立大学で2.9%、公立大学が1.9%、私立大学で10.2%という結果になっており、ピークの平成22年度に比べて、公立大学、私立大学で入学者が減少している。

一方、韓国では、修学能力試験で課される教科中心の教育課程運営や試験準備中心の単純な知識増幅ならびに個人負担教育費における教育格差等の課題が社会問題化していた。2007年、

李明博政府は個人負担教育費軽減と公教育正常化などを目的に高等学校の教科、副教科領域の全てを大学入学試験に反映するため、入学査定官が選考を行う「入学査定官制入試」を取り入れた。

入学査定官制については、これまでも大学入試制度研究の中で導入背景・選考類型の内容が調査されている（松本,2012;南部,2010;川嶋,2010）。そこでは、いわゆる教科学力考査を廃し、学校生活記録簿（高校での活動および成績証明書）の比重を高め、面接や口述などで判定する選抜システムが報告された。しかし、入学査定官制の導入後、どのように発展していき、成果があったのかについての言及はまだ行われていない段階での報告であった。ここでは、韓国における入学査定官制度がその後どのように発展していったのか経緯と成果について調査したものを報告する。

2 調査方法

本調査は、韓国教育開発院大学入試制度研究室長の紹介を経て、慶熙大学校、中央大学校、ソウル女子大学校の入学管理部を訪問した。対応者は、専属教員ならびに専属のアドミッション・オフィサーの方々であるが、その中には韓国大学入学査定官協議会初代会長で現在顧問を務めている方にも取材をした。また、韓国現地

で収集した論文、資料をはじめ、韓国大学教育協議会のホームページも参考にした。

3 入学査定官制の拡大状況

韓国では、教育先進国の大学入試選考を検討し、その中でも米国の主要大学の入学選考方式をモデルにした「入学査定官制入試」を 2007 年に導入した。入学査定官とは、高等学校の教育課程および学生の成績や能力、素質、個人環境、大学入学後の伸長を推測する学生選抜の専門家である。主な役割は、入試関連の資料（選考のために利用する志願票、推薦書、学校成績、志望理由書など）を調査・審査し、志願者の入学可否を決定することである。修学能力試験の点数により機械的に合否判定する点数中心の選抜から脱却して、学生の学業成就の程度と素養、創造力など能力を総合的に評価するという観点を含んでいる入試である。韓国では 2007 年以降、この入学査定官制入試を導入する大学が年々増加している。導入すれば、大学の育成人材像に合う学生が選抜でき、さらに巨額の入学査定官制支援事業費による支援金が準備されている。表 1 と表 2 は、その政府支援の経緯と拡大状況

である。

韓国において、修学能力試験のような単なる教科成績合算による選抜ではなく、多様な選考要素に対する総合的かつ専門的な選抜評価という概念は、盧武鉉政府 2004 年の教育革新委員会大学入試特別委員会で、初めて議論されている。公式的な文書で登場したのは、2004 年に発表した「学校正常化のための 2008 学年度以降大学入学制度改善案」である。その後、教育革新委員会と韓国教育開発院で議論され始めた入学査定官制は、2006 年 12 月に 20 億ウォンの予算が配分され、2007 年度から 10 大学の先行実施が行われた。引き続き、2008 年には 40 大学に拡大して、表 2 にあるように 4476 名が入学査定官制を通じて選抜された。2009 年には、実施大学数は 7 大学のみ増加だが、選抜数を大幅に増加して 24696 名（全体の 6.6%）の選抜を行った。その後、2009 年には 350 億ウォンの予算と長期支援計画を策定し、2010 年には、政府支援大学を 60 大学に拡大したうえで、さらに入学査定官養成機関として 7 大学を指定した。2011 年度は、予算額を維持したまま、政府支援大学を増加し、これにより支援開始以来 2012 年まで毎年選抜

人数が拡大しているという状況である。

政府支援大学は、10 の先導大学（全国に先駆けて試行的に導入する責任を負った大学）から開始された。当時の先導大学は、国公立大 2（慶北大・ソウル大）、私立大 8（カトリック大、建国大、慶熙大、成均館大、延世大、仁荷大、中央大、漢陽大）²⁾であった。入学査定官制の政府支援大学の選定は、各大学からの申請を受けつけ、現職の大学教授、入学査定官、高校教師等の専門家とで、前年度事業の実績、次年度の事業運営計画、今後 3 年間の発展計画を中心に評価して政府支援大学を決定し、教育科学部（文部科学省）と大学教育協議会（大学教育質保証機関）より発表される。2012 年の政府支援大学は、表 3³⁾のとおりである。

先導大学は、入学査定官制の募集人員が全体の 24.5%以上の比率でなければ指定されないという基準がある。指定されたほとんどの大学が次年度もこの値を維持し、継続して先導大学の指定を受けている。さらに、前年度の新規で指定された大学（「新規大学」と呼ばれている）の中で推進要領や

表 1 入学査定官制の政府支援経緯

年度	政府支援大学
2004.1	入学査定官制導入提案
2006.12	国会予算 20億ウォン配当
2007.9	10大学入学査定官制 示範施行
2008.9	継続大学と新規大学選定
2009.3	40大学に 236億ウォンの支援計画発表
2009.6	先導大学、継続大学、新規大学発表 入学査定官養成機関発表(5大学)
2009.12	350億ウォンの支援計画及び長期支援発表
2010.6	入学査定官制 支援大学発表 入学査定官養成機関発表(7大学)
2011.5	支援大学60大学：先導 (30)、優秀 (20)、特性化募集運営 (10) 入学査定官養成期間の選定 (追加2大学、総9大学)

表 2 入学査定官制の拡大状況

年度	全支援大学	国庫支援 予算 (ウォン)	導入大学 (率)	学生数(率)
2007	10	20億	10 (5%)	254 (0.05%)
2008	40 (継続10, 新規30)	162億	41 (20%)	4,476 (1.2%)
2009	47 (先導15, 継続23, 新規9)	242億	90 (45%)	24,696 (6.5%)
2010	60 (先導29, 優秀21, 特性化10)	350億	107 (52%)	35,421 (10.1%)
2011	66 (先導30, 優秀20, 特性化 8, 教員養成大学8)	351億	121 (60%)	41,762 (10.5%)
2012	66 (先導30, 優秀20, 特性化 8, 教員養成大学8)	391億	123 (62%)	43,138 (11.5%)

表3 2012年入学査定官制支援事業施行大学

入学査定官制 先導大学	全体募集枠24.5% を入学査定官制で選択している
国公立大学：ソウル大、全南大、全北大、忠南大、ソウル市立大	
私立大学：建国大、慶北大、慶熙大、高麗大、檀国大、東国大、東亜大、西江大、ソウル女子大、成均館大、誠信女子大、崇実大、延世大、仁荷大、中央大、翰林大、淑明女子大、梨花女子大、漢陽大、朝鮮大、韓国外国語大、韓東大	
専門大学：蔚山科技大、カリスト、ポステク	
入学査定官制 優秀大学	
国公立大学：江原大、慶尚大、公州大、木浦大、釜慶大、釜山大、忠北大、韓国交通大、ソウル科技大	
私立大学：嘉泉大、カトリック大、江南大、建国大（地方）、京畿大、順天郷大、亜州大、田光大、全州大、弘益大、東義大	
入学査定官制 特性化募集単位運営大学	
国公立大学：光州科学技術大	
私立大学：慶雲大、コットソネ賢都社会福祉大、国民大、明知大、嶺南大、又石大、又松大	
入学査定官制 教員養成大学 運営大学	全体募集枠47.9% を入学査定官制で選択している
国公立大学：光州教育大、釜山教育大、晋州教育大、韓国教員大、京仁教育大、大邱教育大、ソウル教育大、春川教育大	
入学査定官制 司法大学 インセンティブ師範大学	
慶北大、東国大、成均館大、梨花女子大、中央大、漢陽大、公州大、釜山大、全州大、忠北大	
入学査定官 研修訓練機関	
国公立大学：ソウル大、慶北大、全南大、忠北大、韓国外大	
私立大学：東国大、成均館大、梨花女子大	

太字は、初期の先導大学

成果が特に優秀な大学を先導大学に追加する仕組みになっている。優秀大学も、先導大学同様に前年度からの継続と新規大学の中から比較的评价が高い大学が選定される。特性化募集単位運営大学は、入学査定官制において特性化高校（職業や体験型の高校）の募集枠を設けている大学である。教員養成大学は、入学査定官制の募集人員を全体の47.9%以上で実施している大学である。

支援金は、入学査定官人件費だけでなく、査定システムの開発資金が主であるが、巨額の国庫負担がどこまで続くかは、韓国国内でも議論になっている。ただし取材した大学によると、選考料収入や教育力強化事業など他の大学支援事業との連携により、捻出が可能という話であった。

4 入学査定官制の募集割合

表2にあるように2012年度入学査定官制の全4年制大学の募集割合は、約11%である。中でも、

政府支援を受けている先導大学の募集割合は、24.3%（ソウル首都圏は27%）であり、制度開始以降、導入大学および募集割合は拡大している。特に先導大学では、入学査定官制の募集比率が、2008年の0.1%から、2009年度17.3%、2010年度21.0%、2011年度24.1%となり、急激に比率が上昇している。

表4は、中でも高い募集比率の大学の一例である。大学ごとに見てみると、国公立大学、首都圏の私立大学かつ大規模大学で、募集比率が高い傾向がうかがえる。

現在の韓国において、入学査定官制という制度そのものは大学のイメージ向上にも一役買っている。従来の教科成績一辺倒の人材育成から多面的評価を通して適性や行動姿勢（韓国語では「人間性」）を判断する入学査定官制は、一種の「文武両道」を表す全人格者としてのイメージが伴うと言われている。入学査定官制を導入するという大学広報は、新時代や未来志向の大学教育のイメージを創出することにつながる

表4 2012年度 主要大学の随時募集入学査定官選考選抜比率

選抜比率	大学数	大 学 名
100%	7	光州教育大 光州科学技術大 ソウル大 蔚山科学技術大 晋州教育大 KAIST ポリテク
70%~100%	4	韓東大(97.8%) コットソネ大(97.5%) 釜山教育大(94.6%) ソウル女子大(74%)
40%~70%	3	翰林大(53.8%) 江原大(53.2%) ソウル市立大(42.2%)
30%~40%	15	釜山大(39.8%) 東国大(38.8%) カトリック大(38.7%) 建国大(34.4%) 慶熙大(33.6%) 東亜大(30%) 淑明女子大(35.4%) 成均館大(32.9%) 漢陽大(32.9%) 誠信女子大(31.3%) 順天郷大(36.6%)、亜州大(33.5%)、仁荷大(34.7%)、中央大(33.1%)、忠北大(33.4%)、
24.5%~30%	11	全南大、全北大、忠南大、慶北大、高麗大、檀国大、西江大、崇実大、延世大、朝鮮大、韓国外国語大

太字は国公立大学。またポリテクは韓国労働部が設立のため、国公立大学には合っていない

いうものである。また個人の教育費負担を削減し、高校現場の教育の活性化につながる大学の「社会貢献」の演出にも効果的だという話であった。そして、2011年に大学入学査定官協議会が実施したアンケートによる⁴⁾と入学査定官制が拡大した理由は、「総合的學生評価を通じて点数中心の選抜から脱皮したいから」が46%、次いで「高校教育の正常化に寄与したいから」44%、「學生構成を多様化したいから」および「大学理念に合う學生選抜をしたいから」という回答がそれぞれ9%という結果が出た。

5 入学査定官制の進化

入学査定官制の評価審査基準は、進化し続けている。先述したように入学査定官制の導入背景には、韓国の大学進学にかかる私教育費（学校外教育機関受講費）負担増の格差問題、教科中心の大学入試準備的学習（詰め込み学習）等の脱却の目的があった。それにより当初の入学査定官制は、修学能力試験の点数結果だけではなく、学校生活記録簿および大学入試を多様化させて、多方面の評価基準を持つという機能を包含していた。そのため、入学査定官制の導入直後では、修学能力試験を利用せずに学校生活記録簿および推薦書、自己紹介書、個人活動および実績物といった出願資料を参考に選考を行ってきた。選考の中心は潜在力（大学入学後に伸長が期待できる能力）を測るということで、学業成績だけでなく、学校外で華麗な活躍をしている生徒、または校外実施の資格取得で補充した受験生を合格にするという学校外活動に対して可点を施すような判定をしてきた。

我が国でも、推薦入試等で資格を点数化するという状況が90年代半ばから始まっており、語学検定等を入試で点数化している大学の一覧を業者が広告に掲載したりしている。また、文部科学省の大学入学者選抜入試実施要項の中でも入試で活用している学部試験の例として、各種検定を明示している。このような資格や検定結果を選考過程で点数化するという行為に表れているように大学の合否判定では、定性的な内容を評価するという行為より、比較しやすく認知されている尺度を代用するケースが見受けられる。

韓国でも同様に数年前に修学能力試験の等級制を導入したが、高校、受験生が混乱し、翌年

には点数制に戻ったという経緯がある。修学能力試験で何点ならどの大学に合格できるかを考え、得点できなければ不合格になることを当然と受け入れる。そこには、大学合格を果たすための最低条件を、しかもわかりやすく準備しやすい条件を、受験生だけでなく保護者も教師も求めてくるという背景もある。さらに、入学査定官制のような入試の対策では、華々しい学校外活動が列挙できれば、合格に近くなると考えられ、校外活動のカリキュラムコースを設置する学校外教育機関が多く発生する事態にもなった。そこでは他人と異なる稀少な体験ができるよう、短期留学や検定・資格対策といった速成的な学びを促し、出願書類の自己アピールの項目を飾ることだけを目的としていたため、教科偏重型とは違った意味で学校活動が疎かになり、制度導入の本来の意味（高校教育平準化）がなくなりつつあった。

韓国では、このように保護者をはじめとした一般社会における入学査定官制の理解が乏しく、誤解と偏見が初期のころにあった。その誤解と偏見を簡単にまとめるところだ。まず、教科成績が不足している学生にとって、簡単に大学に進学できる制度である。そして、外部の資格実績や校外での受賞など華々しい活動や体験が多ければ多いほど合格しやすいといったものである。その誤解や偏見から脱するために、2010年に大学教育協議会は、入学査定官制運営の共通基準を発表している。その内容を整理したのが、

表5 入学査定官制運営共通基準 共通選考要素

評価要素	評価基準	総合評価
<教科関連要素>		
教科成績		
学年別成績推移		
学業関連探求活動	学業意志および	
教科関連校内受賞実績	専攻適合性	
放課後学校活動 等		
<創意的体験活動>		
読書活動		
目標達成証(認可証)	創意的	
進路探索・体験活動		
クラブ活動		総合評価に
ボランティア活動		よる最終等
放課後学校活動 等	人間性	級評価
<学校生活充実度、人的適性>		
共同体意識		↓
リーダーシップ		合否判定
学業意志		
特別活動		
出欠状況	学業成就度	
教師の評価		
交友関係 等		
<学習環境>		
家庭環境	成長潜在力およ	
学校の教育課程	び発展可能性	
地方の教育環境		
学業遂行における障害克服 等		

表 5⁵⁾である。

入学査定官制での選考では、この共通の選考要素を反映しており、各大学で建学理念や募集単位別の特性および差別化された基準を適用し、合否判定を行っている。選考要素の内容は、教科関連と創意的体験活動、学校生活充実度や適性、そして学習環境である。これらを総合的に評価して合否判定を行っている。

また表 6⁶⁾の内容は追加公告である。そこには、校外の実績および個別で対処可能な稀少な体験に関して排除し、受験生が学校という環境の中でいかにして活動を充実させ、自分の能力を伸ばすことができたかという点で評価を行おうとしていることがわかる。これは、高校という公正性の高い環境の中で成果が出ている生徒は、大学でも成果を出すことができるという考えから

来ている。私費の経済力に左右される各イベント体験のようなスペックではなく、学校生活を創意的体験の場としてどのように創出して、自分自身を伸ばしてきたか、そのストーリーが求められる評価となっているのが特徴である。

表 6 入学査定官制運営の共通基準

公教育活性化を阻害する選考要素(例示)	
TOEIC・TOFLE・TIMSS・JLPT(日本語能力試験)・HSK(中国語検定)など公認語学試験成績、教科関連校外受賞実績、口述英語面接など選考要素活用	
海外奉仕実績など校外教育機関の依存可能性が高い体験活動活用	
自己紹介書および証拠書類など必ず英語技術	
入学査定官制主旨に査定が合わない受験資格制限(例示)	
TOEIC・TOFLE・JLPT・HSKなど公認語学試験成績	
特別目的高校卒業(予定)者または海外高校卒業(予定)者	
数学・物理・化学など教科関連オリンピック入賞成績	
論述大会・音楽コンクール・美術大会など校外入賞成績	
一般高校に開設されにくい専門教科履修または履修単位	
該当の大学が開設した教科関連特別教育プログラム履修	

6 入学査定官制の成果

韓国の入学査定官制の拡大理由の一つに入学生追跡管理の結果から学習成果優秀者が多いということが挙げられている。表 7⁷⁾は、2010年に入学査定官制で入学した学生と入学査定官制以外の選考で入学した学生の大学入学後の学業成績(GPA)の平均を比較した表である。それによると、入学査定官制で入学した学生は、時間経過により非入学査定官選考の学生より成績がよく、伸び率も高いという結果となっている。

また図 1・2⁸⁾は、首都圏にある難易度上位の私立大学における大学と専攻に対する入学後の

表 7 入学査定官選考後の入学生の学業成績の推移

大学	区分	2009学年度入学生				2010学年度入学生	
		1年生 1学期	1年生 2学期	2年生 1学期	2年生 2学期	1年生 1学期	1年生 2学期
建国大	入学査定官選考	2.91	3.07	3.21	3.44	3.55	3.73
	非入学査定官選考	3.06	3.15	3.13	3.25	3.25	3.41
慶熙大	入学査定官選考	2.91	3.09	3.19	3.23	3.1	3.21
	非入学査定官選考	3.03	3.09	3.11	3.22	2.99	3.05
成均館大	入学査定官選考	3.6					
	非入学査定官選考	3.45					
梨花女大	入学査定官選考	3.2	3.24	3.25		3.3	
	非入学査定官選考	3.11	3.25	3.3		3.15	
中央大	入学査定官選考	3.3	3.18	3.07	3.44	3.4	3.4
	非入学査定官選考	2.94	3.09	3.13	3.3	3.22	3.2
漢陽大	入学査定官選考					3.43	
	非入学査定官選考					3.14	

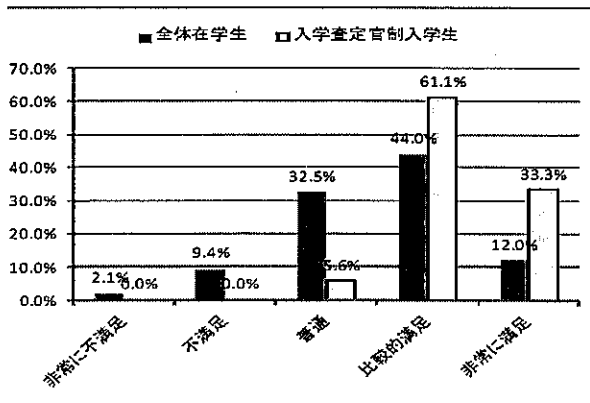


図1 K大学 大学満足度

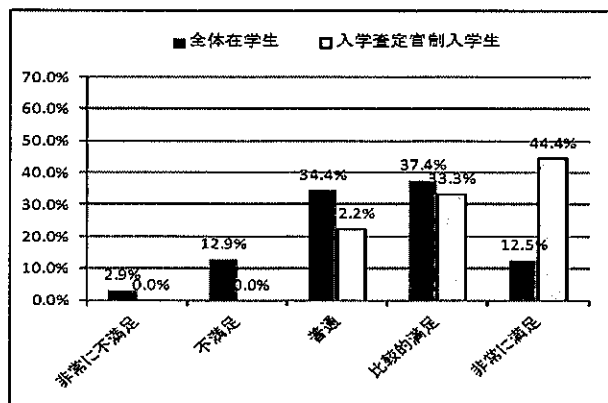


図2 K大学 専攻満足度

満足度を測定した結果である。入学査定官制で入学した在校生は、「非常に不満足」・「不満足」と回答した者はなく、また比較的「満足」・「非常に満足」の割合が全体と比べて非常に高くなっている。さらに、専攻の満足度においても「非常に不満足」・「不満足」と回答した者がいない状況である。「満足」は、在学生全体の方が多く回答しているが、「非常に満足」の割合は、入学査定官制で入学した在校生の方が非常に高い結果となっている。

その他、この大学では中途退学および転学部の比率も入学査定官制の入学者の方が、非入学査定官制の入学者より低いという結果も出ている。

7 まとめ

このたび韓国の入学査定官制がどのような展開になっているのかを現地で調査をしてみて、導入当初より内容がずいぶん異なっていることがわかってきた。

まず、韓国型多様化入試（多面的判定入試）の導入、成立のために人材育成と設備・組織運営にかなりの費用を投資している。また大学へ制度導入を拡大し、本稿では詳しく触れていないが、国民への理解と認知の促進を図っている。しかも、影響力の強い有名大学や首都圏にある大学ほど入学査定官制を導入し、定員枠も多いことがわかった。さらに、校外教育機関に影響される教育格差を廃し、高校教育平準化を目指す入学者選抜判定を徹底している。また、この制度の入学者追跡調査の結果、多くの大学で非入学査定官制の学生より入学査定官制の学生の方が満足度、帰属意識ともに高く、教育成果も高いという評価となっている。しかし、筆者が掘っている追跡結果は、まだ一部の人気大学でのものであり、限定的であるのも事実である。今後も制度が拡大・長期化した場合の追跡調査については、観察が必要であろうと考える。

取材をした前大学入学査定官協議会会長は、現在の入学査定官制は、「該当の高校の教育課程を忠実に履修した生徒」や「学校生活（高校生時代ではなく）で頭角を現した生徒」の場合、高校生活で成果が出ているのだから、大学でもうまくいくだろうという期待を持っている制度であると話していた。高校での成果の背景は学校環境だけでなく、生活環境も含まれる。成長

過程も重視され、困難をいかに克服したか、どれだけ意欲的に取り組んできたかの具体的事例も出願書類の中で明示することを求められるようになってきている。この「高校教育中心」とまで受け取れる選抜評価の姿勢は、実質は高校教育の審査であり、その行為は、高校教育の質保証に関連する動きになると考えられる。「大学入試が変わらなければ、高校教育も変わらない」と指摘されるが、まさしくその突破口を開いたような新しい制度であり、注目できる。しかし、その審査方法の詳細については、まだ韓国側からの回答を得ておらず、引き続いて調査を行いたい。

今回は、入学査定官制のその後について調査研究した内容のうち、動向に焦点をあてて報告した。今後のAO入試をはじめとする我が国の入学者選抜および高大接続のあり方を考えるときに韓国の入学査定官制の選考内容や評価方法から多くの示唆が得られると感じている。

-
- 1) 中央教育審議会第4回高大接続部会資料1 (2013)。「AO入試等の実施状況について」
 - 2) 教育人的資源部(現・大学教育協議会)(2007)。「入学査定官制支援計画の確定・発表」
 - 3) 大学教育協議会(2012)。「入学査定官制支援事業選定結果発表」報道資料
 - 4) イム・ジンテク(2012)「大学入学査定官制の運営と経緯」大学入学査定官協議会(韓国語)
 - 5) 大学教育協議会(2010)。「入学査定官制運営共通基準(共通選考要素)」より整理・作表
 - 6) 大学教育協議会(2010)。「入学査定官制運営共通基準(共通選考要素)」より整理・作表
 - 7) イム・ジンテク(2012)「大学入学査定官制の運営と経緯」大学入学査定官協議会(韓国語)の資料より引用
 - 8) イム・ジンテク(2012)「大学入学査定官制の運営と経緯」大学入学査定官協議会(韓国語)の資料より引用

参考文献

- イムジンテク (2012) . 「高校と大学の連携強化
 方案」慶熙大学研究資料 (韓国語)
- ハンスンヒ・パクスングン・キルヘジ (2012) .
 「ソウル大学校の入学選考 ー入学査定官
 制を中心にー」京都大学大学院教育学研
 究科公開シンポジウムレジュメ
- 韓国教育開発院 (2009) . 「入学査定官制の成功
 的定着方案探索」韓国教育開発院 (韓国語)
- 韓国大学教育協議会 (2010) . 「(報道資料) 入
 学査定官制運用の共通基準」(韓国語)
 [http://univ.kcue.or.kr/ao/board/AoBoard
 _view.do?part=pr&selectedId=13917](http://univ.kcue.or.kr/ao/board/AoBoard_view.do?part=pr&selectedId=13917)
- 韓国大学教育協議会 (2012) . 「2013 大学入試
 準備方法」「2013 年度大学入試選考基本計
 画説明会資料」韓国大学教育協議会ホーム
 ページ (韓国語) <http://univ.kcue.or.kr/>
- 川嶋太津夫 (2008) . 「韓国における共通テスト
 (CSAT) のみによる大学入学選抜の現状
 および入学後の成績との関係や高大接続の
 現状などに関する調査研究」平成 19・20 年
 度文部科学省先導的の大学改革推進委託事業
 調査研究報告書
- 松本麻人 (2012) . 「韓国における高大接続プロ
 グラム」『東アジアの高大接続プログラム』
 広島大学高等教育研究開発センター高等教
 育研究叢書 115,17-38
- 南部広孝 (2010) . 「東アジア諸国・地域におけ
 大学入学者選抜制度の比較研究」平成 19
 年~平成 21 年度科学研究費補助金 (基盤研
 究 (C)) (課題番号: 19530757) 研究成果
 報告書,1-3.61-69.
- 山本以和子 (2012) . 「日本 AO 入試の運営と課
 題」韓国教育開発院研究資料 RRM2011-3-4
- ユンソンイ (2011) . 「入学査定官選考学生成果
 研究」慶熙大学研究資料 (韓国語)